

SAWAYAKA さわやか



上赤谷集落で毎年2月に実施している「賽ノ神」、同じ日の夜には「赤谷どんつきまつり」を行います。火祭りからはじまる赤谷の歴史ある行事です。



「今年の無病息災と五穀豊穡を願って」

特集 未来に羽ばたけ 新規就農者紹介 p 2~3

- 農業委員会視察研修を終えて..... p 4
- 「農業委員会活動の見える化推進活動」..... p 5
- 農業委員会の活動報告..... p 6
- 令和5年中に公告した
農地賃貸料情報をお知らせします..... p 7
- おれらの組織紹介・編集後記・インフォメーション p 8

2024.

2月号

農者紹介



「5年後には法人化を
そして古き良き物を残したい」

加治地区 大沼 春子さん（51歳）

新発田市と新潟市北区で、先輩農業者の力を借りて水稲を中心に2・4ha、プチペール、オータムポエム、レンコン、ジャンボにんにく等で10aの作物を栽培している大沼さん。

48歳の時に農業大学校で1年間学んで、就農3年目。コロナの流行でリモート授業が多く、なかなか大変で、そんな時は友人と連絡をとり合い情報を共有して勉強してきたとのこと。以前は普通の会社員だった大沼さん。「父が長年兼業農家としてやってきましたので、少しはわかっていたつもりでしたが、いざやってみると大変で日々勉強です。収穫作物は全量直販しています。会社員と違い、自由に時間を使えるなど、利点も多くやれば自分に返ってくることに喜びがあります」と笑顔で語ってくれました。

今はドローン散布など、機械作業委託も受託しており、トラクター、田植機、コンバインなどを使っている、特に動力散布機が重く使いづらいので体を鍛えているとのこと。

「将来は長女に後継者として一緒にやってもらい、2年後には、4・4haに規模拡大して5年後には、法人化を目指していますが、単に規模拡大にとどまらず、古き良き茗荷谷米を残したいと思っています」と未来に向かって大きな目標を持って取り組んでいる大沼さんです。

（インタビュアー 農業委員 村田 研悦）

未来に羽ばたけ 特集 新規就



「安心安全で喜ばれるものを」

豊浦地区 五十嵐 陸さん (26歳)

学校卒業後は神奈川の企業に就職していましたが、学生時代に祖父母の農作業を手伝っていた時の楽しさが忘れられず、御両親に相談し、就農を決めたそうです。(現在は就農2年目)

就農当初、水稲だけでは収入が不安定ということ、農協より越後姫を勧められて取り組むこととなり、紫雲寺地区の先輩農家さんの元で研修をされていた時にラジコンヘリオペレーターを勧められ、免許を取得され、水稲・イチゴ・ラジコンヘリオペレーターをメインで行っています。

イチゴ出荷先は、農協や市内の直売所と直接販売も行っており、評判も上々で多くの方々がい求めに来てくれるそうです。

今後の目標は、「規模を拡大し、安心安全で消費者の皆さんに喜ばれるものを作っていきたい」と語ってくれました。

(インタビュアー 農地利用最適化推進委員

横野 寛)

審査会で受賞しました

11月27日に開催された令和5年度施設園芸立毛品評会審査会において、イチゴ部門の「新潟県農業会議会長賞」を受賞されました。おめでとうございます。

農業委員会視察研修を終えて

令和5年11月16日、17日
秋田県横手市・福島県南相馬市

本県同様に「米単作から脱却」を目指す秋田県の市町村で園芸産出額トップの横手市と震災からの復興に向けて取り組んでいる福島県南相馬市を視察してきました。

横手市十五野（じゅうごの）ハウス団地は圃場整備を契機に水稻から収益性の高い菌床椎茸の周年栽培とほうれん草に切り替えた産地です。同市では県の産地育成事業のもと戦略品目を定め椎茸団地のほか、様々な園芸品目を取り入れた産地づくりをすすめているとのこと、またJA選果場や県果樹試験場のほか、市で園芸振興拠点センターを有しており支援体制が整備されていました。生産構造転換のためには、生産者の経営判断を後押しする県を含めた関係機関・団体の連携による強力な施策の必要性を感じました。

南相馬市は震災前に比べて営農再開面積で64%、基幹的農業従事者は4割以下と大きく落ち込んでいるそうです。圃場・拠点施設整備と高生産性農業の確立、担い手確保の課題に必死に取り組んでおられました。このことは近い将来新発田市も直面する課題です。郷土を愛し農業で頑張る南相馬市の生産者及び関係者の皆さんが、復興のブランドデザインに基づき未来に向けて新しい地域農業をつくりあげられること、その取り組みが他の地域のモデルとなることを願ってやみません。

農政推進部会 農地利用最適化推進委員

加藤 雅之



横手市十五野団地でハウス53棟を運営する法人の佐々木代表は「反収で水稻の何倍にもなること」を力説



豪雪地の横手市でハウスの空調、融雪対策に地下水を利用（写真はハウス間の融雪槽）



震災時の避難受け入れに感謝の意を表し、丁寧、熱心に説明いただいた南相馬市の関係者



南相馬市の復興モデル法人「I love ファームおだか」は水稻50haとブロッコリー60haを作付けする

「農業委員会活動の見える化推進活動」

新潟県女性農業委員の会総会と研修会がさる令和5年12月5・6日に東映ホテル（新潟市）で開催されました。今回は、研修会の中で新潟田市農業委員会情報活動部会「農業委員会活動の見える化推進」と題し事例発表を行ってまいりました。

新潟田市農業委員会について、新潟田市の概要から各部会についての説明、また、情報活動部会の毎年の活動や広報誌「さわやか」について説明させていただきました。新潟田市農業委員会では毎年2回（夏・春）全8ページ、表と裏表紙カラー刷りで広報誌「さわやか」を毎回8千部発行しております。県内では、このような広報誌を発行している農業委員会は少なく、白黒だったり、一枚裏表だったり様々なようです。また、広報誌を介してさらに多くの方々に情報を伝え、農業委員活動の見える化を推進するため、様々な課題を提案し検討を重ねている現状も説明させていただきました。

今年度はさらなる紙面の内容充実を図り、さらに多くの農業者に興味を持っていただける紙面作りに取り組んでおります。令和5年春号では初めて二次元コードを記事に取り入れれました。また、多忙な農



第29回 全国農業新聞賞受賞



広報活動事例発表（於：女性農業委員の会）

業者に農業委員会情報をいつでも手元にお届けできるように、SNSを活用した情報提供の検討も行っております。現在、全国でSNSを活用した情報発信を行っている農業委員会が2委員会と取り組んでいる委員会はまだまだ少ないのが現状です。新潟田市農業委員会でもSNSを活用した情報発信に取り組むため、部内でSNSについての勉強会も行っております。

昨年度は、広報誌「さわやか」が認められ、第29回（令和4年度）全国農業委員会、だよりコンクールに於いて全国農業新聞賞を受賞いたしました。これも今まで情報活動部会に携わってきた委員の方々、そして読者の皆様のおかげと感謝しております。この場をお借りして御礼申し上げます。

農業委員会活動の見える化を推進するため、また、さらにより多くの農業者へ農業委員会情報や新潟田市内の農地情報など役立つ内容をお届けするため、今後も様々な形の情報発信に取り組んでいきたいと思っております。こんな情報が欲しいなどご意見やご要望がありましたら、農業委員会までご意見お待ちしております。

（農業委員 若杉 智代子）

農業委員会の活動報告

農業委員・農地利用最適化推進委員の活動にとつて、各種の大会・研修への参加も大切な業務の一環です。ここでは11月以降に開催されたものから紹介いたします。

11月20日から12月20日まで

「地域計画策定関係機関打合せ」

会場 新発田市役所加治川庁舎

高齢化、人口減少による農業者減少、耕作放棄地拡大等により、地域の農地が適正に利用されやすいよう、令和5年4月の農業経営基盤強化促進法等改正により、人・農地プランが法定化されることとなりました。これに伴い、地域での話し合いにより、地域内外から農地の受け手を幅広く確保しつつ、農地中間管理機構（新潟県農林公社）を活用した農地の集約化等を進め、目指すべき10年後の農地利用の姿を明確化する「地域計画（目標地図含む）」を、令和7年3月迄に定める必要があります。

今後の地域での話し合いの方法や各地域の実情等の打合せを行っています。（撮影 11月28日に実施した紫雲寺地区の打合せ）



関係機関の打合せでは、新発田地域振興局、JA、各土地改良区、市農林水産課、農業委員会（各地域の農業委員、農地利用最適化推進委員）が出席し、今後の地域での話し合いの方法や各地域の実情等の打ち合わせを行います。今後、担い手に該当する方等には、会議への参加をお願いします。場合もあるかと思いますが、その際はよろしくお願いたします。

11月21日

「新潟県農業委員会大会」

会場 新潟テルサ

新潟県内の各農業委員会が一堂に会し、今年は約700人の出席となり、当市からは会長を含め25名が参加しました。

大会は、永年勤続等の委員の表彰式に始まり、全国農業会議所の稲垣専務理事から情勢報告、新潟食料農業大学の渡辺学長からは「地域計画」についての講演をいただきました。

また、要請決議等の3議案が提案され、それぞれ可決されました。



当市の宮村会長が、大会の議長として議案審議等の進行役を務めました。

11月24日

「女性農業者のための「コミュニケーションスキルアップセミナー」

会場 新潟ユニゾンプラザ

新発田市からは、4名の女性農業委員・農地利用適正化推進委員が参加し、経営コンサルタントの方が講師となって「コミュニケーションスキル」を習得する研修を行いました。「仕事のやりがいとは？」「こんな職場なら働きやすい？」などについての講演を聴講し、グループワークも行いました。

県下から集まった総勢約50名のみなが交流を深め、内容の濃い研修となりました。



グループワークは明るく、楽しく、ユーモアも交え、意見を出し合いながら、交流を深めました。

令和5年中に公告した新発田市の 農地賃借料情報をお知らせします。

※この情報は、令和5年中に公告した農地の賃貸借契約のデータを単純集計したものです。

(単位：10a当たり)

区分 地区	1 データ数 (4,598) ※ 最多契約額 【20,000円】	2 データ数 (2,331) ※ 最多契約額 【15,000円】	3 データ数 (26) ※ 最多契約額 【 9,000円】	畑 データ数 (73) ※ 最多契約額 【 3,000円】
【賃借料】	【最高契約額】 【30,000円】 【平均契約額】 【18,387円】 【最低契約額】 【 5,000円】	【最高契約額】 【25,000円】 【平均契約額】 【15,545円】 【最低契約額】 【 5,000円】	【最高契約額】 【10,638円】 【平均契約額】 【 9,223円】 【最低契約額】 【 9,000円】	【最高契約額】 【20,000円】 【平均契約額】 【 5,603円】 【最低契約額】 【 3,000円】
新発田	◎圃場整備済地区	◎圃場整備未済地区		※畑の金額については、 新発田市全域のデータ になっています。
五十公野	◎圃場整備済地区	◎圃場整備未済地区		
松浦	◎圃場整備済地区	◎圃場整備未済地区		
米倉	◎圃場整備済地区	◎圃場整備未済地区		
赤谷			全区域	
川東	◎圃場整備済地区	◎圃場整備未済地区		
菅谷	◎圃場整備済地区	◎圃場整備未済地区		
加治	◎圃場整備済地区	◎圃場整備未済地区		
佐々木	◎圃場整備済地区	◎圃場整備未済地区		
豊浦	◎圃場整備済地区	◎区画整備済地区で10 ～20a区画全域及び福 島潟周辺並びに山沿地 区で圃場整備未済地区		
紫雲寺	◎圃場整備済地区	◎圃場整備未済地区		
加治川	◎圃場整備済地区	◎圃場整備未済地区及び 山沿地区で圃場整備未 済地区		

- ※ 農地法の改正により標準小作料が廃止されたことに伴い、新発田市では上記のとおり賃借料の目安となる情報提供を行います。
- ※ 農地の賃借料の集計は字単位で行われているため、圃場整備が字の全部で完了していない場合も区分1の圃場整備済地区に集計しています。
- ※ データ集計の際、0円（使用貸借）契約は除外しています。

まわりの組織紹介



会社のマークは市内のデザイナーの方に依頼して作成しました。ヘリコプターのローターをモチーフにしたものです。水色は空、緑色が稲をイメージしています。



今回は川東地区の株式会社スマートアグリさんへおじゃましました。(担当: 渋谷 淳 委員)

「地域の協力に感謝しながら」

株式会社スマートアグリ新発田は令和3年に代表取締役の小野晴貴さんとお父さんの秀男さんが協力して設立した会社です。令和5年の水稲作付面積は27ha。栽培品種はコシヒカリ、新之助、ちほみのりです。作付けのうち、20haを直播栽培として作業の省力化を図っています。

「は2機所有して農薬散布の委託も受けており、今年は1千haを散布するまでになりました。作業にあたっては地域の人たちに協力していただいたことに感謝しているのとことです。今後については、水稲のほかには麦の栽培にも取り組んでいきたいと語ってくれました。」

編・集・後・記

2023年秋、稲作農家は期待と不安の中で刈取りを迎えた。刈取り前から猛暑の影響が心配されたなか、案の定、不安が的中。コシヒカリにおいては白濁等の影響が出た。

被害は県内全域に及んだ。私も50年以上米作りをして初めての経験をした。今後も異常気象が続くと予測されているが、個々の農家に対応するのは難しい。県、農協、関係研究機関などから、対策についての指針をいただきたいと思う。

さて、当委員会発行の広報「さわやか」では、新規就農者、営農組織等を紹介掲載している。紹介写真を見ると、どちらも若い人達の姿が映っている。頼もしく見え、新発田の農業は捨てたもんじゃなと感じた。

私は昔ながらのアナログ人間。しかし若い人達はSNS等での情報発信・取得と幅広い人との繋がりをもち知識・人脈を広げ、新しい発想力と行動力で農業にチャレンジしている。

もう一つは、新規就農者に女性の方の就農も紹介されるようになった。女性ならではの感性、発想で頑張っている。これは素晴らしいことで、昔の農家では考えられないことだと思う。さらに異業種からの農業参入もあり6次産業化まで考えている。

私たち農業委員・推進委員ともに、しっかりサポートしていきたい。これからの新発田市の農業は、こういう人たちが先頭に立ち発展していくことを期待したい。(阿部 國範委員)

インフォメーション

農地(田)の権利移転の手続きは
4月25日(木) までに

田の売買や貸し借りを予定されている方は、早めに農業委員会へ書類を提出してください。受付の再開は農地中間管理機構が**6月26日(水)から**、その他は**8月13日(火)**です。

◎畑は通年で受け付けています。

農地売買・賃貸借 手続き変更について

地域計画により、令和7年2月11日(予定)以降、基盤法相対(売買・賃貸)は提出できなくなり、
①農地中間管理機構(農林公社)
②農地法3条に基づく許可
の2種類のみとなります。